

ア. 入国の経緯

*概況

外国から日本へ不法に入国する人の数は近年減少しつつあるそうである。タイ国からも同様であり、結果的に、売春行為を行なうようなタイ女性もまた減少しつつあるという。この主たる理由は、日本の経済的不況により、日本に不法入国したいという魅力が低下したことによる、と対象者はいう。

対象者は、日本への入国方法も最近になって変化してきているという。少し前までは、パスポートやビザを偽造したり、日本人男性と偽装結婚したりする方法が多くとられていたが、現在は規制が厳しくなりそのような方法をとることが難しくなっている。そこで、そのような方法にかわって、マレーシアやシンガポール等の他国を経由する方法や、入管をむりやりすりぬけたり、カバンの中に入って入国するなどという考えられないような方法がとられるようになってきている。

*仲介者

日本に不法に入国するためには、誰かの手助けが必要となるが、まずタイではタイのブローカーがいる。彼らはタイ人、マレーシア人、シンガポール人、日本人、香港人、そして西洋人などさまざまである。日本には日本のエージェントがおり、彼らは日本人であったりタイ人であったりする。そして、これらのルートの最終で、彼女らはスナックなど雇用されることになる。

この間、各エージェントの間で金銭の授受があり、その金額は最終的には300～400万円にもなる。タイからこのような方法で入国した女性は、まずこれだけの借金を負うことになる。また、エージェント間で金銭の授受決済が行われることから、タイ人女性の借金の相手はスナック等の最終雇用者になる。このことは、彼女らはタイのエージェントには借りはないということであり、最終雇用者の意思に反してタイに帰国してもエージェントとはトラブルにはならないということである。

ロ. 入国の動機

対象者によれば、タイ人女性が不法行為をするなどのリスクを負っても日本に来たがる理由は「お金」、つまり経済的理由である。タイの貧しさ、タイと日本との経済格差が、彼女らの基本的な動機である。他方、対象者によれば、タイの田舎も飢え死にするほど貧しいわけではなく、出稼ぎに行かなくともそのまま暮らせるそうである。しかし、タイの田舎にも物

質文明が浸透しつつある。冷蔵庫、テレビ、バイクなどなどへの欲求が高まっている。このような農村の変化が金銭への欲求を高め、まずは都会への出稼ぎ、そして、より金になる日本への不法入国ということにつながる。このような場合、タイの農村部からすぐに日本に来るとは限らず、むしろそういうケースは少なく、バンコクや他の国で働いて日本に来るということが多いという。

対象者がいう、もう一つの来日の動機は、タイの東北部などの地方に多い「親孝行」という道德意識である。もちろんこれ自体悪いことではないのだが、親のために出稼ぎに行き、送金することは良いことであり、出稼ぎ先がかなり問題ある所でもかまわない、それをしないことは親不孝という考え方である。この意識から来る圧力は、男の子よりも女の子に強いそうである。

もちろん娘が売春をしているということは、親にとっても快いことではないであろう。したがって、娘はレストランや工場で働くと親にいい、親もその内容をあまり詮索せずに受け入れる。対象者は、このようなタイ特有の文化的な背景が、日本への出稼ぎを「後押しする」要因となっているという。加えて、対象者は、このような文化を変えることはなかなか難しいという。

さらに、日本に来る前に例えばドイツや香港、そしてバンコクのようなタイの都市において売春をしていて、その後、同じ仕事をするために日本に来るという場合があるそうだ。このような場合は経済的動機ではあるが、特に確信犯的、プロ的な動機による来日といえるだろう。

八. 日本における状況

一般的にいつて、タイ人女性はタイから日本の三重、長野、千葉、茨城、山梨など各地に行く。この間、タイのブローカーからはじまり、日本に来てからも日本人、タイ人、その他外国人などが彼女らを出迎え案内する。対象者によると、そのため本人はどこにいるのかわからない場合も多いという。

対象者によれば、このようなブローカーたちの間を渡ってくる間に、タイから来た女性は300～400万円の借金を負うことになる。この借金をタイ人女性の多くは半年から一年で返すという。その後の稼ぎは彼女たちの収入となり、年間数百万円も稼ぐ人もいるそうだ。この金額は彼女らから見れば大変なもので、かなりの送金も可能ということになる。しかし、日本で働いている間に、部屋代や食事代をとられたり、賭け事に使ったり、

男に貢いだり、薬物依存になったりして、せつかくの稼ぎを散財してしまうことも多いという。このことは、彼女らのすべてが「幸せではない」ということであり、極端な場合は「骨になって帰る」ようなこともあるという。

タイ国大使館に、いわゆる駆け込みをするタイ人女性も少なくないようだ。例えば、この面接の二日前にも、サービス業といわれて日本に来て三ヶ月目だが、茨城県のスナックで売春を強要されて大使館に保護を求めてきた例があったという。

このように、「騙されて」日本に来る例も多いと対象者はいうが、先述の例のように売春ということを知らないということは少ない。「騙されて」といってもいろいろな場合があるという。例えば、「売春をすることは承知していたが、スナック勤めをしながら売春もするというつもりであったのに売春宿に送り込まれた」というような売春状況の変化についてのトラブルや、金銭の条件に関するトラブルもある。対象者の認識では、タイから日本に来て売春をしている女性たちは、そのことを承知の上で、金を稼ぐために、リスクはあるが儲かる商売として日本にきているものが多いそうである。

二. タイに特有の事情

タイ国においてまず問題なことは、前述のような文化的背景の要因である。対象者によれば、娘がバンコクや外国に出稼ぎに行つて（売春だとしても）帰ってくることにマイナスイメージはなく、むしろ留学して成功して帰る、というような親たちの受け止め方である。そして送金によって彼らの生活も成り立ち、加えて家も立つなら、立派な孝行娘ということになる。

むろん、日本などの海外で売春することには、心身の健康面でも、経済面でも大きなリスクが伴う。タイ国政府も村を廻つてこのようなリスクを知らせるプロジェクトを行っているという。しかし、そのようなリスクを承知の上で、人生をかけるような危険を伴つても、それでも金がほしいというのがタイの農村の人々の考え方なのである。

対象者は、タイ人女性による日本での売春を抑制するためには、売春のリスクについてのタイ国内の広報活動をより徹底すると同時に、タイからの出国を厳しくする、タイ国内における仕事を創造する、日本の入国を厳しくしてもらふ、などのことが有効ではないかといっている。加えて対象者は、この問題の解決は時間がかかるし、簡単なことではないという発言をしていた。

ホ. まとめ

タイ人女性の日本における売春の問題についての対象者の発言は、以下の二点にまとめることができるだろう。

一つは、タイの特に農村部において物質的欲求が高まってきている。そして、そのような欲求を満たすために、娘が都会や外国のような所に出稼ぎに行き送金することを期待する。そしてそれが売春のようなリスクを伴うことでも容認する。これはタイ特有の文化である。このことが、タイ人女性の日本での売春行為を後押しする要因となっている。

他の一つは、タイ人女性は多くの場合、騙されてというより、承知で売春をしているということである。その動機は「金」ということにつきる。もちろん、売春には多くのリスクが伴うが、それでも彼女たちは非常に儲かる方法として、売春という仕事を選択しているのである。

4) まとめ

東海林氏とラッチャウエート氏との面接調査の結果をまとめる。

日本における外国人女性の売春の背景には、わが国とこのような女性を送り出している外国との経済格差がある。このため、彼女らはリスクを覚悟で日本に入国しようとする。このような動機は、タイのような国でも物質文明の影響が強まりつつあることによって、より喚起されるようになっている。また、タイのように、娘が親や家族のために出稼ぎに行き、それによって家族が豊かになることを親孝行であるとして尊ぶような文化では、外国人女性たちが、日本に來たがる、日本での売春もいとわないという傾向はなくなるであろう。現在のような、わが国の経済的停滞であっても、また、出国入国が以前より厳しくなった状況でも、彼女らの上記のような動機はなくなるであろう。現在でも日本における売春によって得る経済的利得はまだ魅力的のようである。

他方、日本に入国した外国人女性たちの全てが、わが国で稼いで満足して帰国しているわけではない。ここにはトラフィッキングと言えるような状況がある。外国人女性が日本に入国するに際して、外国、あるいは日本における、日本人や現地人やその他の国のブローカーが手配、関与することがある。そして外国人女性たちは渡航費用など多額の債務を負わされる場合もある。そのために売春を強要されたり、債務返済のために長期間に渡って売春を続けざるを得なくなる場合もある。多額の生活費がかかったり、ギャンブルにのめりこんだり、外国人女性が日本で稼ぐことにはかなりのリスクがある。さらにH I V等の健康の問題、精神的問題、薬物使用等の問題もある。加えて、近年売春の状況が過

酷になったり、監視が厳しくなったりしている。

以上のように、我が国における外国人女性の売春の問題は、経済格差や貧困を主な原因とする問題という側面の他に、その数では比較的少数とは思われるが、ブローカーの関与や、売春の強制や、債務で拘束することなど、トラフィッキングと言いうる事例も存在する。その意味で、我が国における外国人女性の売春の問題は深刻な問題である。